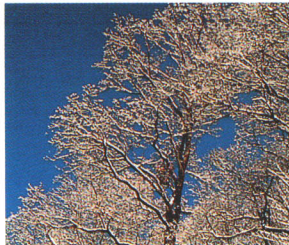


(右) 薬草としても知られるセンブリの美しい花は、人の目をさけるように山合いの傾面にひっそりと咲いています。



か つ ら お

葛尾村・四季の表情



(右) こもれ日を受けた山すそでは、ワラビやセンマイなどの春を告げる姿を時々見かけることがあります。



(上) 初雪の小出谷の坂を登れば、ツートンカラーの世界です。朝日を浴びて輝く白銀は、時の流れを忘れさせてくれます。



(右) 葛尾大尽屋敷跡には、享保年間、京都東御門内御跡遠藤兵部の娘、おいね夫人が嫁入りに際し持参移植したと伝えられる京桜が、今も華麗な昔をしのぶように咲き続けています。



(左・上) 郷土文化保存伝習館 現在の葛尾村を築き上げてきた人たちの功績を偲び、また感謝の念を伝えるため、民俗資料として大切に保存展示されています。



(上・左・左下) 葛尾大尽屋敷跡 松本家の祖は、時の左大臣藤原魚名氏の末裔で、信州葛尾城主の系譜で、親家の嫡男親照が大永2年相馬頭胤公に仕え、田村の境目押しとして葛尾郷(百六十石五斤)を賜わり、当地に居住6代目好倉より11代に亘り栄華を誇りました。



邸宅跡は2ヘクタール余に及び築城用石を用いて、池は近海八景を形どるなど豪荘を極め、磨崖仏など往時をしのばせるものがあります。明治4年と昭和8年に2度の火災にあい、建造物の大半を焼失しましたが、享保年間に京都より持参移植したと伝えられる京桜は、現在でも春の開花時には、訪れる人たちの目を楽しませています。

MADE IN KATSURAO

自然味あふれる葛尾村の特産品



しいたけ



豆腐



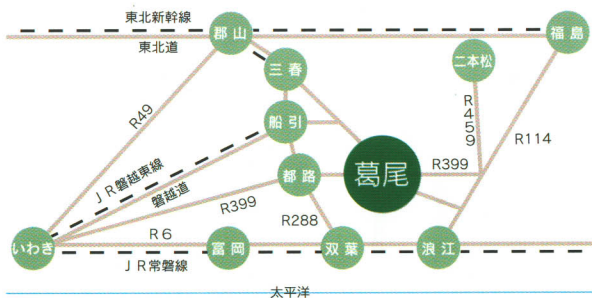
葛尾のもち



交通安全キーホルダー



ひやむぎ



福島県葛尾村役場

〒979-1602 福島県双葉郡葛尾村大字落合字落合16 TEL.0240-29-2111 FAX.0240-29-2123